

ハ之ニ原因シテ死亡シタ
 ルトキハ明治二十九年勅令
 第百八十號ヲ準用シ手當金
 ヲ給ハ附則
 本令ハ附則
 發布ノ日ヨリ施行ス

内甲二三二

明治三十二年二月十八日

内閣總理大臣

法制局長官

外務省

文部省

海軍省

文部省

逓信省

内務省

陸軍省

司法省

農商省

逓信省

別紙兩院ノ議決ヲ經タル北海道
 舊土人保護法案ヲ審査スルニ
 多少ノ修正アルモ支障ノ虞無之
 付衆議院議長上奏ノ通裁可

ヲ奏請セラレ可然ト認ム

法律案

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル北海道舊土人保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年二月一日

内閣總理大臣
内務大臣

法律第三十七號
上奏案ノ通

内甲二三二

別紙奏上有之度候也

明治三十二年二月十五日

衆議院議長片岡健吉



内閣總理大臣侯爵山縣有朋殿

衆議院書記官長林田亀太郎



衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル北海道
舊土人保護法案ノ裁可ヲ奉請ス
明治三十二年二月十五日

衆議院議長片岡健吉

衆議院書記官長林田亀太郎

北海道舊土人保護法

第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ従事スル者又ハ従事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以內ヲ限り無償下付スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス

一 相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス

二 質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス

三 北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス

四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ

條ニ依リ下付シタル

前條ニ依リ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方税ヲ課セス又登録税ヲ

徴收セス

舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ルノ外之ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ掲ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス

第三條 第一條ニ依リ下付シタル土地ニシテ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ十五箇年ヲ經ルモ尙開墾セサル部分ハ之ヲ沒收ス

第四條 北海道舊土人ニシテ貧困ナル者ニハ農具及種子ヲ給スルコトヲ得

第五條 北海道舊土人ニシテ疾病ニ罹リ自費治療スルコト能ハサル者ニハ藥價ヲ給スルコトヲ得

從來ノ成規

第六條 北海道舊土人ニシテ疾病、不具、老衰又ハ幼少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ

ニ依ルノ外仍之ヲ救助シ救助中死亡シタルトキハ埋葬料ヲ給スルコト

ヲ得

第七條 北海道舊土人ノ貧困ナル者ノ子弟ニシテ就學スル者ニハ授業料ヲ給スルコトヲ得

第八條 第四條乃至第七條ニ要スル費用ハ北海道舊土人共有財産ノ收益ヲ以テ之ニ充ツ若シ不足

アルトキハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第九條 北海道舊土人ノ部落ヲ爲シタル場所ニハ國庫ノ費用ヲ以テ小學校ヲ設クルコトヲ得

第十條 北海道廳長官ハ北海道舊土人共有財産ヲ管理スルコトヲ得

北海道廳長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ共有者ノ利益ノ爲ニ共有財産ノ處分ヲ爲シ又必要ト認ムルトキハ其ノ分割ヲ拒ムコトヲ得

北海道廳長官ノ管理スル共有財産ハ北海道廳長官之ヲ指定ス

第十一條 北海道廳長官ハ北海道舊土人保護ニ關シテ警察令ヲ發シ之ニ二十圓以上ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

附則

第十二條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十三條 此ノ法律ノ施行ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム



内務大臣提出北海道舊土人保護法案
右謹テ上奏シ恭シク

聖裁ヲ仰キ併セテ帝國議會ノ議ニ付セ
ラレムコトヲ請フ

明治三十一年十月二十四日

内閣總理大臣伯爵大隈重信 為

内甲二三二

明治三十一年十月二十日

内閣總理大臣

法制局長官

外務省

受

海軍省

文部省

逕

内務省

陸軍省

司法省

農商省

逕

別紙内務大臣請議ノ件ヲ審査スルニ北海
道舊土人ノ保護ニ関シテハ一視同仁ノ趣
旨ヲ奉シ明治初年ヨリ之カ方法ヲ講シタ
リト雖未タ十分其目的ヲ達スルニ至ラサ

ルニ漸次内地移民ノ為自然ノ利澤ハ占
領セラレ追々其活路ヲ失ヒ空ク凍餒ヲ
待ツノ外為ス所ナキノ悲境ニ沈淪セシト
スルヲ以テ之カ救済ノ方法ヲ設ケ其災
厄ヲ除キ其窮乏ヲ恤ミ適當ノ産業ニ依
リ其生ヲ保テ其家ヲ成スヲ得セシムルハ
國家ノ義務ナリト云フニ在リテ尤當ノ
儀ト思考スレハ請議ノ通閣議決定セ
ラレ第十三回帝國議會ニ提出相成可
然ト認ム

法律案
呈案附箋ノ通

北海道舊土人保護法案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治二十一年三月二日

内閣總理大臣
内務大臣

参考

北海道國有未開地處分明治三十年三月
法律第二十六號

第一條 北海道國有未開地ノ賣拂、付與、交換及貸付ノ處分ハ此法律ニ依ル

第二條 前條ノ賣拂及貸付ハ此ノ法律ニ於テ特ニ規定スル場合ノ外競争ニ付セス

第三條 開墾牧畜若ハ植樹等ニ供セムトスル土地ハ無償ニテ貸付シ全部成功ノ後無償ニテ付與スヘシ

前項ノ貸付地面積ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ貸付地ハ全部成功ニ至ラスト雖土地整理上支障ナシト認ムル場合ニ於テハ其ノ成功地ノ全部若ハ一部ヲ付與スルコトヲ得

第四條 公用若ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ直ニ賣拂、付與又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條 市街地、市街豫定地其ノ他土地ノ狀況ニ由リ必要ト認ムル土地ハ競争ニ付シ直ニ賣拂フコトヲ得

第六條 社寺地又ハ墓地ニ供セムトスル土地其ノ他事業ノ目的ニ由リ必要ト認ムル土地ハ直ニ賣拂フコトヲ得

第七條 素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償若ハ無償貸付ヲナスコトヲ得

第八條 民有地ト交換スルコトヲ得ヘキ土地ハ其ノ評定價格相均キモノニ限ル

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

無償貸付 十箇年

有償貸付 十五箇年

植樹又ハ泥炭地ノ開墾ニ限リ特ニ二十箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付スルコトヲ得

天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由リ貸付期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ貸付期間ノ半期間マテ延期スルコトヲ得

第十條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ豫定ノ事業成功ノ程度ニ從ヒ隨時其ノ成否ヲ點檢シ豫定ノ如ク成功セサルトキハ未成功地ノ全部ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部若ハ全部ヲ無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ

第十一條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ由リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價格ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償スルモノトス但シ第三條ニ依リ貸付シタル土地ニ關シテハ其ノ評定價格土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多額ナルトキハ其ノ價格ニ由リテ辨償スルモノトス
前項ニ掲クル總テノ費用ハ起業者ノ負擔トス

第十二條 左ノ場合ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由ルモノ、外賣拂、付與及貸付處分ヲ取消スモノトス但シ賣拂ニ係ルモノハ其ノ既納ノ代價ヲ還付スヘシ

一 第三條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ

二 第四條及第六條ニ依リ賣拂、付與又ハ有償貸付ヲナシタル土地ニシテ三箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

三 第四條及第七條ニ依リ無償貸付ヲナシタル土地ニシテ二箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

第十三條 左ノ場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス
一 第三條ニ依レル貸付中ノ土地ヲ自己ノ便宜ニヨリ貸付期間内ニ返還シ又ハ第十條ニ依リ返還セシメタルトキ

二 第四條及第七條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ヲ豫定ノ目的ニ使用セスシテ返還シ又ハ第十二條ノ處分ヲナシタルトキ

第十四條 第十條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付中ノ土地ヲ返還シタル場合又ハ第十二條ニ依リ賣拂、付與及貸付處分ノ取消ヲナシタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ行政廳ノ定メタル期間内ニ於テ之ヲ除去スヘシ若其ノ期間内ニ除去セサルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十五條 左ノ貸付地ニ限リ行政廳ノ許可ヲ得テ其ノ貸付地ノ上ニ有スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シ又ハ賣買、讓與スルコトヲ得

一 第四條及第七條ニ依レル有償貸付地

二 行政廳ニ於テ特ニ指定シタル區域内ニ於ケル貸付地

三 命令ヲ以テ定メタル事項ニ該當スル貸付地

第十六條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間満了後一箇年以内ニ其ノ土地ノ付與ヲ請求スヘシ一箇年ヲ經過シテ請求セサルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 第三條ニ依リ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ全部ヲ成功スルニ非サレハ他ノ土地ノ無償貸付ヲ受クルヲ得ス但シ相當ノ資力アリテ成功スルヲ得ル者ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 此法律ニ依リ賣拂、付與又ハ交換シタル土地ハ其ノ民有トナリタル年ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス

第十九條 第十條及第十二條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
附則

第二十條 此ノ法律ハ明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則ニ依リ貸付中ノ土地ニ對シテモ之ヲ適用ス但シ此ノ法律施行前牧畜ノ爲ニ貸付シタル土地ニ限り五箇年以内貸付期間ヲ延期スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ノ爲必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則及其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル成規ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十三條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○北海道國有未開地貸付地面積制限 明治三十年四月
勅令第九十八號

朕北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付地面積制限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付地ニ面積ハ一人ニ付左ノ制限ヲ超エルコトヲ得ス

一 開墾ニ供スル土地 百五十萬坪

二 牧畜ニ供スル土地 二百五十萬坪

三 植樹ニ供スル土地 二百萬坪

會社又ハ組合ニ對シテハ前項地積ノ二倍迄ヲ貸付スルコトヲ得

屯田兵土地給與規則

明治二十三年九月
法律第七十九號

第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ一戸凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其下士ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス

屯田兵出身ニアラサル下士シテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給ス
第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス

公有財産ノ管理利用竝ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル部分ハ沒收ス

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其ノ他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其給與シタル土地ヲ沒收ス

前項ニ依リ土地ヲ沒收スルトキハ給與ノ建物及其ノ土地ニ定著スル給與ノ物件ハ併セテ

之ヲ沒收シ其ノ他ノ建物及物件ハ期限ヲ定メテ之ヲ取除カシム若期限迄ニ取除カサルト
キハ競賣ニ附シ其ノ費用ヲ引去リ殘額ヲ交付ス(二十八法律第二十
五號ヲ以テ本項追加)
第七條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ
之ニ滿ツル迄追給ス

其屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル
第八條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其ノ滿期ノ年
ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十一年マテニ召募シタル者ニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

第九條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ土地ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ
所有權ヲ相續セシム(三十九法律第四十一號
ヲ以テ本項以下追加)

第十條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ土地ハ家督
相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ間家族ヲシテ其ノ土地ヲ保
管セシム

第十二條 此ノ規則中屯田兵ニ關スル規程ハ第十條第一項及第十一條ニ依リ給與ノ土地ヲ
所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

恤救規則

明治七年十二月
太政官達第六十二號

濟貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニ因テ其方法ヲ設ヘキ
等ニ候得共目下難差置無告ノ窮民ハ自今各地
ノ遠近ニヨリ五十日以内ノ分左ノ規則ニ照シ取計
置要由内務省ハ可同出此者相違候事

恤救規則

一 極貧ノ者獨身ニテ廢疾ニ罹リ產業ヲ營ム能
ハサル者ニハ一ヶ年米壹石八斗ノ積ヲ以テ給
與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五
年以下ニテ其身廢疾ニ罹リ窮迫ノ者ハ
本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ七十年以上ノ者重病或ハ老衰シテ產
業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ヶ年米壹石八斗ノ積ヲ
以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年
以下ニテ其身重病或ハ老衰シテ窮迫ノ者ハ
本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ疾病ニ罹リ產業ヲ營ム能ハサル者ニハ一

日米男ハ三斗
女ハ二斗割ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下
ニテ其身病ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與ス
ヘシ

一同獨身ニテ十三年以下ノ者ニハ一ヶ年米七斗ノ積
ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五
年以下ニテ其身窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與ス
ヘシ

一救恤米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以テ石代下ヶ渡

人々事

法制局第一号

道甲第三六號

北海道舊土人保護ニ關スル
件別紙法律案提出ス
明治三十一年七月廿三日

内務大臣伯爵板垣退助



内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

甲二二二

内務省

道甲第三六號

北海道舊土人保護ノ件
北海道舊土人ノ保護ニ關シ
テハ從來之カ方法ヲ講シタ
リト雖未タ十分ニ其目的ヲ
達スルニ至ラズ因テ茲ニ別
紙法律案ヲ第十三議會ニ提
出シ以テ保護ノ實ヲ舉ケン
ト欲ス
右閣議ヲ請フ

明治三十一年七月廿三日

内務大臣伯爵板垣退助



内務省

法律

北海道舊土人保護法

第一條 北海道舊土人ニシ

テ農業ニ従事スル者又ハ従事セムト欲スル

者ニハ一戸ニ付土地一萬

五千坪以内ヲ限り無償下

付スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ従

フヘキモノトス

一 相續ニ因ルノ外讓渡ス

コトヲ得ス

二 質權抵當權地上權又ハ

永小作權ヲ設定スルコ

トヲ得ス

三 北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非レハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス

四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ

前項ノ土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非レハ地租及地方稅ヲ課セス又登録稅ヲ徵收セス

從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ

得ルニ非サレハ讓渡シ又ハ第項第二及第三掲ケタル物權ヲ設定スル

第三條 第一條ニ依リ下付シタル

ヨリ起算シ十五箇年ヲ經ルモ尚鑿成セサル部分ニ没之ヲトキハ其部分ニ限

第四條 北海道舊土人ニシテ貧困ナル者ニハ農具及

種子ヲ給スルコトヲ得

第五條 北海道舊土人ニシ

附 終 節

トヲ得ス
三 北海道廳長官ノ許可ヲ
得ルニ非レハ地役権ヲ
設定スルコトヲ得ス
四 留置權先取特權ノ目的
トナルコトナシ
前項ノ土地ハ下付ノ年ヨ
リ起算シテ三十箇年ノ後
ニ非レハ地租及地方稅ヲ
課ス又登録稅ヲ徵收セ
從前ヨリ所有シタル土地
ハ北海道廳長官ノ許可ヲ

得ルニ非サレハ讓渡シ又
ハ第項第三及第三掲ケタル
コトヲ得ス 物權ヲ設定スル

第

三條

第一條ニ依リ下付シタル

得

ヨリ起算シ

土地

ニシテ其ノ下付ノ

年

ルモ

尚關

成

セサル部分

經

之ヲ

キハ

其

部分

限

沒

收ス

第

四條

北海道舊土人ニシ

テ

貧困ナル者ニハ農具及

種子ヲ給スルコトヲ得

第

五條

北海道舊土人ニシ

テ疾病ニ罹リ自費治療ス
ル能ハサル者ニハ醫藥ヲ
給スルコトヲ得

第 六 條 北海道舊土人ニシ
テ疾病、不具、老衰又ハ如少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ

明治七年舊土人ニ就達地規

ヲ救助シ救助中

死ニシタルトキハ埋葬料
ヲ給スルコトヲ得

第 七 條 北海道舊土人ノ貧

困ナル者ノ子弟ニシテ就
學スル者ニハ授業料ヲ給

スルコトヲ得

第 八 條 第 四 條 乃至 第 七 條

ニ要スル費用ハ舊土人共有
財産ノ收益ヲ以テ之ニ充
ツ若不足アルトキハ國庫之ヲ支出

第 九 條 北海道舊土人ノ部

落ヲ為シタル場所ニハ國

庫ノ費用ヲ以テ小學校ヲ

設クルコトヲ得

第 十 條 北海道舊土人共有

財産ハ北海道舊土人共有

管理スルコトヲ得

北海道廳長官共有者ノ

利益ノ為ニハ共有財産ノ處

内務省

テ疾病ニ罹リ自費治療ス
ルヲ能ハサル者ニハ
給スルコトヲ得
第 六 條 北海道舊土人ニシ

テ疾病、不具、老衰又ハ幼少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ

明治三十二年達地規則ニ準テ之ヲ

救助シ救助中
死シタルトキハ埋葬料
ヲ給スルコトヲ得

第 七 條 北海道舊土人ノ貧

困ナル者ノ子弟ニシテ就
學スル者ニハ授業料ヲ給
スルコトヲ得

第 八 條 第 四 條 乃至 第 七 條

ニ要スル費用ハ舊土人共有
財産ノ收益ヲ以テ之ニ充
ツ若不足アルトキハ
國庫之ヲ支出ス

第 九 條 北海道舊土人ノ部

落ヲ爲シタル場所ニハ國

庫ノ費用ノ以テ小學校ヲ

第 十 條 北海道舊土人有

財産ノ北 北海道舊土人

管理スルコトヲ得

北海道廳長官ハ共有者ノ
利益ノ爲ニ共有財産ノ處

内務省

テ疾病ニ罹リ自費治療ス
ル能ハサル者ニハ^ノ醫藥ヲ
給スルコトヲ得

第^六條 北海道舊土人ニシ
テ疾病、不具、老衰又^ノ幼少^ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ

死亡シタルトキハ^ノ埋葬料中
ヲ給スルコトヲ得

第^七條 北海道舊土人ノ貧

困^ニタル者ノ子弟ニシテ就
學スル者ニハ^ノ授業料ヲ給
スルコトヲ得

第^八條 第^四條乃至第^七條

ニ要スル費用ハ^ノ舊土人共有
財産ノ收益ヲ以^テ之ニ充
ツ^ル若不足ナルトキハ^ノ國庫之ヲ支出ス

第^九條 北海道舊土人ノ部

落ヲ爲シタル場所ニハ^ノ國
庫ノ費用以^テ之ヲ得

第^十條 北海道舊土人ノ有

財産ハ^ノ北海道廳長官ハ^ノ共有者ノ
管理スルコトヲ得

北海道廳長官ハ^ノ共有者ノ
利益ノ爲ニ共有財産ノ處

内務省

分ヲ為シ又必要ト認ムル
トキハ其分割ヲ拒ムコト
ヲ得

北海道廳長官ノ管理スル共有財産ハ北海道廳長

官之ヲ指定ス

第十一條

北海道舊土人保護ニ關シテ

北海道廳長官ハ北

海道廳長官ハ北

海道廳長官ハ北

海道廳長官ハ北

警察令ヲ發シ二
十圓以下ノ罰金
若ハ二十圓以

以下ノ罰金若ハ
二十圓以下ノ罰
金若ハ二十圓以

以下ノ罰金若ハ
二十圓以下ノ罰
金若ハ二十圓以

以下ノ罰金若ハ
二十圓以下ノ罰
金若ハ二十圓以

以下ノ罰金若ハ
二十圓以下ノ罰
金若ハ二十圓以

第十二條

此法律ハ明治三

十二年四月一日ヨリ施行

十二年四月一日ヨリ施行

第十三條

此法律ノ施行ニ

關スル細則ハ内務大臣

關スル細則ハ内務大臣

關スル細則ハ内務大臣

相

北海道舊土人保護法案理由書

北海道舊土人ノ保護ニ關シ
 テハ一視同仁ノ叡旨ヲ奉シ
 明治初年ヨリ之カ方法ヲ講
 シタリト雖未タ十分ニ其目
 的ヲ達スルニ至ラシ蓋シ舊
 土人ノ皇化ニ浴スル日尚淺
 ク其知識ノ啓發頗ル低度ナ
 リトス是ヲ以テ古來恃テ以
 テ其生命ヲ托セル自然ノ利
 澤ハ漸次内地移民ノ為ニ占
 領セラレ日ニ月ニ其活路ヲ
 失ヒ空ク凍餒ヲ待ツノ外為

内務省

ス所無キノ觀アリ是レ蓋シ
所謂優勝劣敗ノ理勢ニシテ
復タ之ヲ如何トモスル能ハ
サル歟然リト雖彼レ亦均ク
我皇ノ赤子ナリ而シテ今ヤ
斯ノ如キノ悲境ニ沈淪セハ
ヲ目撃シテ之ヲ顧サルハ亦
忍フ可キニ非サルナリ則チ
之カ救濟ノ方法ヲ設ケ其災
厄ヲ除キ其窮乏ヲ恤ミ以テ
之ヲシテ適當ノ産業ニ依リ
其生ヲ保チ其家ヲ成スヲ得
セシムルハ洵ニ國家ノ義務

ニシテ一視同仁ノ叡旨ニ副
フ所以ナリト信ス是レ本案
ヲ提出スル所以ト要ナリ

房道甲初三

本省提出之係諸法案一應引下之儀最
如前次官署照會之及戶部系北海通商土
人保護法案之係議會提出之儀上奏
總裁可滿之分面置相或可由右其供為
議會提出相或度此段申進可也
光緒三十一年十二月十九日

內務大臣官房北海通商長白仁士



內閣書記官長安廣伴一印殿

北海道舊土人保護法案

北海道舊土人保護法

第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以內ヲ限り無償下付スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス

- 一 相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス
- 二 質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス
- 三 北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス
- 四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ

前項ノ土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登録稅ヲ徵收セス

舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ルノ外

之ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ掲ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス

二

第三條 第一條ニ依リ下付シタル土地ニシテ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ十五箇年ヲ經ルモ尙開墾セサル部分ハ之ヲ沒收ス

第四條 北海道舊土人ニシテ貧困ナル者ニハ農具及種子ヲ給スルコトヲ得

第五條 北海道舊土人ニシテ疾病ニ罹リ自費治療スルコト能ハサル者ニハ藥價ヲ給スルコトヲ得

第六條 北海道舊土人ニシテ疾病不具老衰又ハ幼少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ明治七年第百

六十二號達恤救規則ニ依ルノ外仍之ヲ救助シ救助中死亡シタルトキハ埋葬料ヲ給スルコトヲ得

第七條 北海道舊土人ノ貧困ナル者ノ子弟ニシテ就學スル者ニハ授業料ヲ給スルコトヲ得

第八條 第四條乃至第七條ニ要スル費用ハ北海道舊土人共有財産ノ收益ヲ以テ之ニ充ツ若シ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第九條 北海道舊土人ノ部落ヲ爲シタル場所ニハ國庫ノ費用ヲ以テ小學校ヲ設クルコトヲ得

第十條 北海道廳長官ハ北海道舊土人共有財産ヲ管理スルコトヲ得

北海道廳長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ共有者ノ利益ノ爲ニ共有財産ノ處分ヲ爲シ又必要ト認ムルトキハ其ノ分割ヲ拒ムコトヲ得

北海道廳長官ノ管理スル共有財産ハ北海道廳長官之ヲ指定ス

第十一條 北海道廳長官ハ北海道舊土人保護ニ關シテ警察令ヲ發シ之ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

附 則

第十二條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十三條 此ノ法律ノ施行ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

北海道舊土人保護法案理由書

北海道舊土人ノ保護ニ關シテハ一視同仁ノ叡旨ヲ奉シ明治初年ヨリ之カ方法ヲ講シタリト雖未タ十分ニ其目的ヲ達スルニ至ラス蓋シ舊土人ノ皇化ニ浴スル日尙淺ク其知識ノ啓發頗ル低度ナリト是ヲ以テ古來恃テ以テ其生命ヲ托セル自然ノ利澤ハ漸次内地移民ノ爲ニ占領セラレ日ニ月ニ其活路ヲ失ヒ空ク凍餒ヲ待ツノ外爲ス所無キノ觀アリ是レ蓋シ所謂優勝劣敗ノ理勢ニシテ復タ之ヲ如何トモスル能ハサル歟然リト雖彼レ亦均ク我皇ノ赤子ナリ而シテ今ヤ斯ノ如キノ悲境ニ沈淪セルヲ目撃シテ之ヲ顧サルハ亦忍フ可キニ非サルナリ則チ之カ救済ノ方法ヲ設ケ其災厄ヲ除キ其窮乏ヲ恤ミ以テ之ヲシテ適當ノ産業ニ依リ其生ヲ保チ其家ヲ成スヲ得セシムルハ洵ニ國家ノ義務ニシテ一視同仁ノ叡旨ニ副フ所以ナリト信ス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ